

マスコミ研究室

小栗研究室のHPへ



静岡理工科大学・情報学部・情報デザイン学科 小栗勝也研究室

マスコミは時代を映す鏡 多角的な情報分析で実像を読み取る力（メディアリテラシー）を養えば、「今」の世界と日本が見えて来る！ **★文系志向の学生に最適な研究室★**



●当研究室では新聞・テレビ・雑誌・インターネットなどマスコミが発信する「情報の中身」を分析・研究しています。流される情報の比較や、扱われた社会問題そのものの研究などを通して、「今」の世界と日本をマスコミの情報を通して学びます。マスコミが扱わない情報を自分の足で取材し、自らが最初の「情報発信者」になることも期待されていきます。地域社会の情報に関する調査・研究も可。

★コンピューターは当然必要ですが、扱う内容は「社会」と「人間」です。文系志向の方も理系志向の方も対応可能な研究室です★



●研究室では朝日、毎日、読売の記事データベースをフルで利用可。7つの新聞原紙も保存されています。さらに「**新聞記事データベース**」を自作し、必要な記事を抽出・分類・比較する作業も行います。

●新聞やテレビの情報は、いつでも内容が同じとは限りません。同じ事件を扱っても、メディアによって扱い方や評価が異なることが少なくありません。時には白と黒の相違があることさえあります。メディアと賢く付き合うためには、多種多様な情報源から情報を入手して、読み比べる習慣を持つことが重要です。そのために自分に必要な新聞記事データベースを独自に作成するわけですが、このデータベースは新聞記事以外でも何にでも適用できるため、当研究室の卒研では必須のツールになっています。

●同じ新聞でも社説だけでなく、スポーツ欄のみに特化して、プロ野球やJリーグの報道がチームによってどのように異なるかを研究した卒論もあります。自分の興味に合わせて、研究テーマは自由に設定できます。

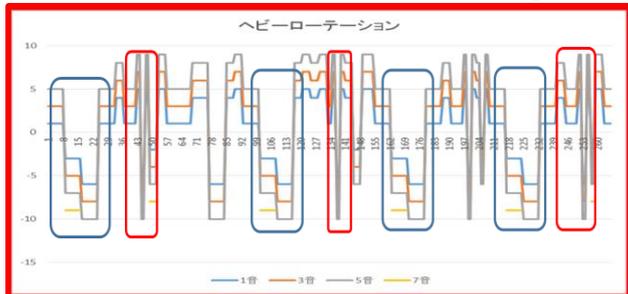
●さらには新聞だけでなく、マスコミの情報なら何でも研究の材料にできます。最近のユニークな研究としては、★日米の流行歌のコード進行に大きな違いがあることを数値で「見える化」した上で、近未来の日米で流行するパターンを予測した研究、★マンガ単行本のコマ割に同じ構図が多数用いられている作品と、同じ構図がほとんど無い作品があることを見つけ、その違いを数値で示し、購読対象者の年齢によってその差が生じていることを証明した研究、などがあります。



★その他にも、テレビのアニメ作品に登場する人物の特徴を比較した研究、自動車CMの車種別の違いを比較した研究、袋井特産のメロンを表象化した物が街に溢れていることをマップ化した研究もあります。

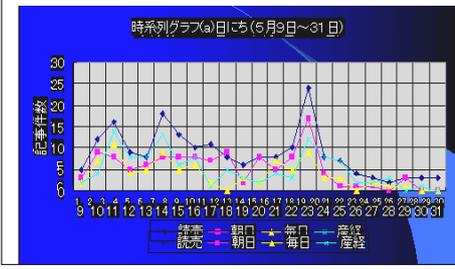
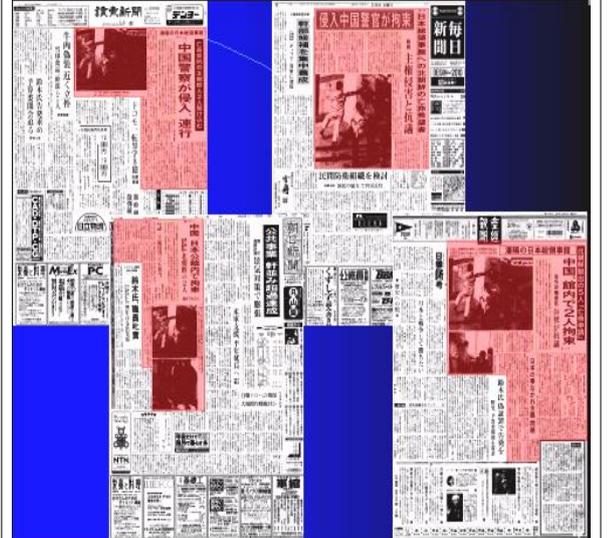
★その他にも、テレビのアニメ作品に登場する人物の特徴を比較した研究、自動車CMの車種別の違いを比較した研究、袋井特産のメロンを表象化した物が街に溢れていることをマップ化した研究もあります。

↑同一構図が多い例 ↓コード進行を「見える化」した例



●当研究室の学生は新聞の山に囲まれながら地道な作業と研究に格闘し続けています。可能な限りの努力を続けた経験は、将来どのような職種に就いても、きっと役に立つに違いないと思います。「**艱難汝を玉にす**」。多少の困難でも平気で乗り越えて行ける、骨太の学生を育てたいと考えています。

◆同じ事件でも新聞によって扱いは異なる（「瀋陽事件」の記事を全国4紙について比較した卒業研究の例） ↓



一随件記事の大きさが、記事の分量と差があることによって目瞭然!



2006年1月、第22回「土光杯」全日本学生弁論大会で日本一に輝いた当研究室の藤田稔君(現 NTT 西日本勤務)。右は審査委員長の日下公人氏(評論家、東京財団会長・当時)。(写真提供:産経新聞社)

静岡理工科大

袋井に関する記事のデータベース化に取り
 進む小栗准教授（後列右）と研究室の学生
 二袋井市豊沢の静岡理工科大



袋井市豊沢の静岡理工科大
 ている。指導に当たる情報シ
 で、袋井に関する静岡新聞など
 ステム学科の小栗勝也准教授
 の記事をパソコンで検索できる
 回しは、データベース作りを通
 して学生が膨大な量の記事を読
 み、必要な情報を整理すること
 研究などに生かす試みが行わ

袋井関連の記事
 データベース化

から「今後の研究や人生の基礎
 となる忍耐力が」と効果を得
 指摘する。
 袋井関連の記事のデータベ
 ーす作りは、平成十七年夏から
 ら始まった。地元出身の学生が
 地域の問題を卒業研究のテーマ
 に取り上げたことをきっかけ
 に、研究に必要な情報を集める
 手段として考案した。小栗准教
 授が参加する地域活性化を考
 える市民団体「新袋井フォーラム」
 で、袋井が、どのように報道さ
 れているかを研究しようと考え
 ていたこともデータベース化を
 後押しした。
 データベース作りでは、新聞
 から「袋井」や「エコパ」など
 袋井に関するキーワードが盛り
 込まれた記事すべてを切り取り
 紙面の画像をパソコンに取り
 込み、キーワードで検索でき
 るように処理する。

同学科三年の授業「社会ス
 トラク実験」の受講生や研究
 室のゼミ生、新袋井フォーラム
 のメンバーが作業に当たる。こ
 れまでに平成十七年一月一日か
 ら二十ヶ月分の記事がデータ
 ベースとして整理された。
 同研究室で、袋井市のモニ
 ングに対する意識調査を卒業研究の
 テーマに選んだ守屋友晶さん
 は「研究を進める上で、デ
 ータベースを活用してみたい」
 と話す。小栗准教授は「記事
 の切り抜きで目に留まった記
 事が面白かったことを例に挙
 げ、「新聞の情報の重要性に気
 が付いた」と振り返った。

情報整理、研究の基礎に